

(有)フロンティアはら (石川県羽咋市)

実証面積：25ha

実証課題名 大麦の生産拡大と低コスト化を目指したデータ駆動型水田収益向上モデルの実証

構成員 石川県農林総合研究センター、(有)フロンティアはら、クボタアグリサービス(株)金沢事務所、JA全農石川県本部、JAはくい、(公財)いしかわ農業総合支援機構、石川県中能登農林総合事務所



背景・課題 ○人口減少や食の多様化などによって、米の需要は減少傾向にあり、大麦等の水田転換作物の作付拡大は農業経営体・地域にとって喫緊の課題
○大規模経営体を中心に経営面積の増加が続いており、労働力等の観点から水田転換作物の作付拡大には、スマート農業技術等の革新的技術が必要



実証地域の大麦生産ほ場

本実証プロジェクトにける想い

本実証では、大麦の作付面積拡大および低コスト化に向けて、
・無人トラクター等の活用によって播種能力を倍増する「スマート播種体系」
・センシングデータや収量データに基づいて、追肥や土づくりを行う「データ駆動型スマート施肥システム」
などの実証を行います。実証を通じて、データ駆動型の水田収益向上モデルを構築し、スマート農業技術の社会実装を推進します。

- 目標**
- 無人トラクター等の導入により、大麦の播種能力を倍増
 - 可変施肥システム等の活用により、化学肥料使用量10%低減
 - 大麦の収量10%向上
 - 上記により生産者利益10%向上

実証する技術体系の概要

要素技術 ①無人トラクター（播種）、②衛星センシング+可変施肥ハイクリブーム、③収量コンバイン+可変施肥対応ブロードキャスタ、④営農管理システム

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「見られる！」ポイント				③			①			②		

①無人トラクター（播種）	②衛星センシング+可変施肥ハイクリブーム	③収量コンバイン+可変施肥対応ブロードキャスタ	④営農管理システム

実証代表 石川県農林総合研究センター
(電話：076-257-6911、メール：nk-kika@pref.Ishikawa.lg.jp)

問い合わせ先

視察等の受入について (公財)いしかわ農業総合支援機構
(電話：076-225-7621、メール：info@inz.or.jp)